2027年6月期　第1四半期

決算説明資料

前田工繊株式会社

東証プライム：7821

前田工繊
MAEDAKOSEN

目 次

1. 2027年6月期 第1四半期 決算の概要 …… 3
2. セグメント別決算概要 …… 11
3. 2027年6月期 業績予想 …… 17
4. 成長戦略としてのM&A …… 24
5. MDKグループ中長期ビジョン
   グローバルビジョン∞ -PARTⅡ- …… 29
6. 会社概要 …… 35

   APPENDIX …… 40

1

2027年6月期
第1四半期　決算の概要

2027年6月期　第1四半期　決算の概要

- 中期経営計画「グローバルビジョン∞ -PARTⅡ-」の最終年度の第1四半期として、「釧路ハイミール」以外の各社業績はほぼ計画どおりに推移した。

- ソーシャルインフラ事業において、主力の公共事業関連のほか、獣害対策事業関連や直近グループ化した子会社業績が順調に推移したが、フィッシュミール事業は原料となるイワシの不漁により業績目標に対して大きく未達となった。

- インダストリーインフラ事業において、BBS事業の業績は回復した。

- 子会社化した名古屋油化のBSを第1四半期末で取り込み。（負ののれん発生）

決算ハイライト

売上高

17,678 百万円

通期計画
進捗率24.1%

粗利益

6,772 百万円

前年同期比
△1.8%

営業利益

3,171 百万円

通期計画
進捗率25.4%

EBITDA

4,091 百万円

通期計画
進捗率24.6%

経常利益

2,954 百万円

通期計画
進捗率22.9%

四半期純利益

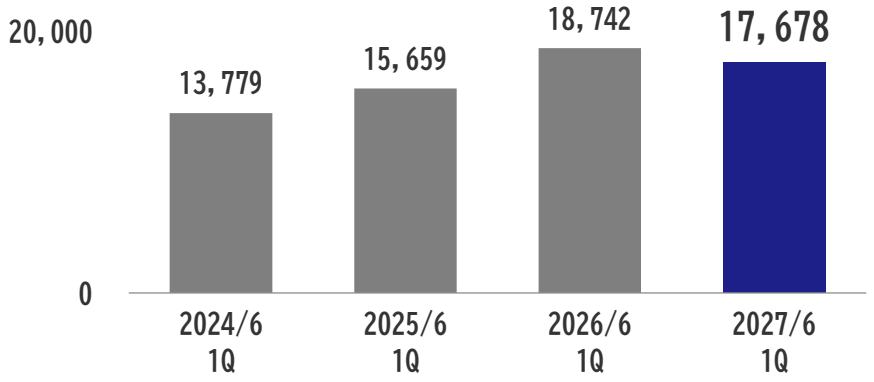
2,884 百万円

通期計画
進捗率30.0%

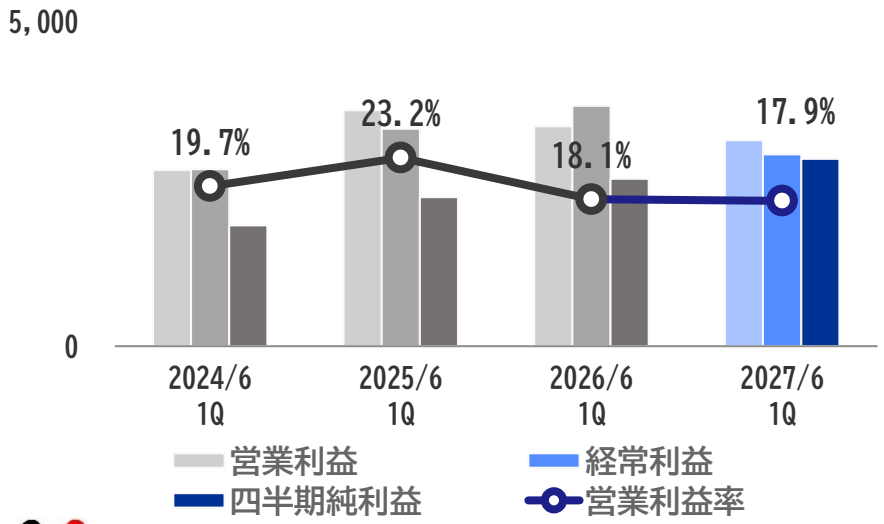
連結決算サマリ

（単位：百万円）

売上高



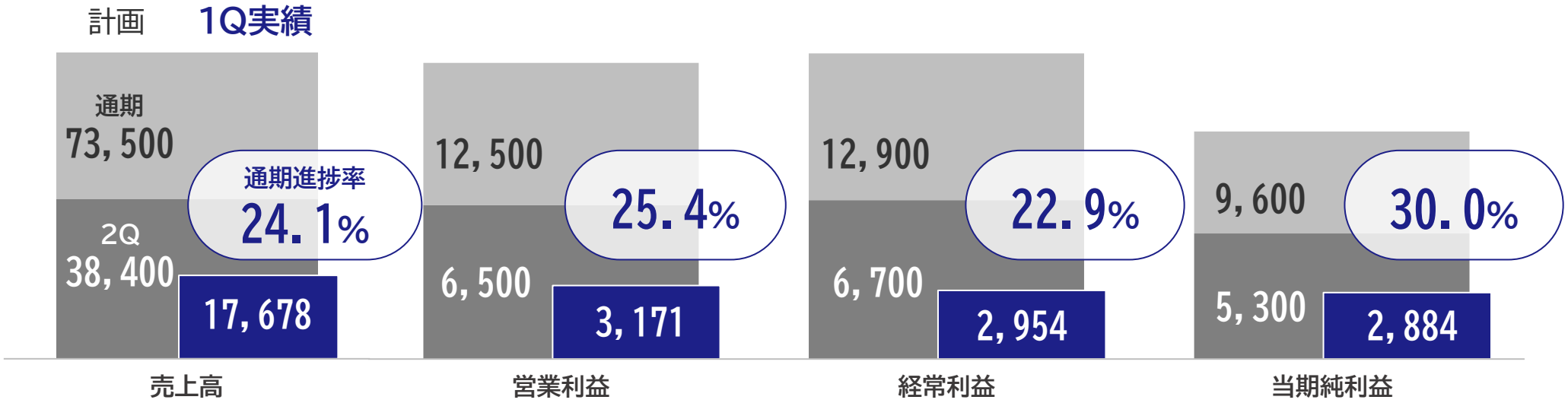
利益



	2026年6月期 1Q		2027年6月期 1Q		
	実　績	売上比	実　績	売上比	増減率
売　上　高	18,742	－	17,678	－	△5.7％
営 業 利 益	3,386	18.1％	3,171	17.9％	△6.3％
ＥＢＩＴＤＡ	4,235	22.6％	4,091	23.1％	△3.4％
減価償却費	830	4.4％	920	5.2％	8.5％
経 常 利 益	3,701	19.7％	2,954	16.7％	△20.2％
親会社株主に帰属する当期純利益	2,577	13.8％	2,884	16.3％	11.9％

計画と実績値との比較

（単位：百万円）



2027年6月期	1Q実績	2Q計画		通期計画	
		金額	進捗率	金額	進捗率
売上高	17,678	38,400	46.0 %	73,500	24.1 %
営業利益	3,171	6,500	48.8 %	12,500	25.4 %
ＥＢＩＴＤＡ※	4,091	8,600	47.6 %	16,600	24.6 %
経常利益	2,954	6,700	44.1 %	12,900	22.9 %
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益	2,884	5,300	54.4 %	9,600	30.0 %

※ＥＢＩＴＤＡ＝営業利益＋減価償却費＋のれんの償却額

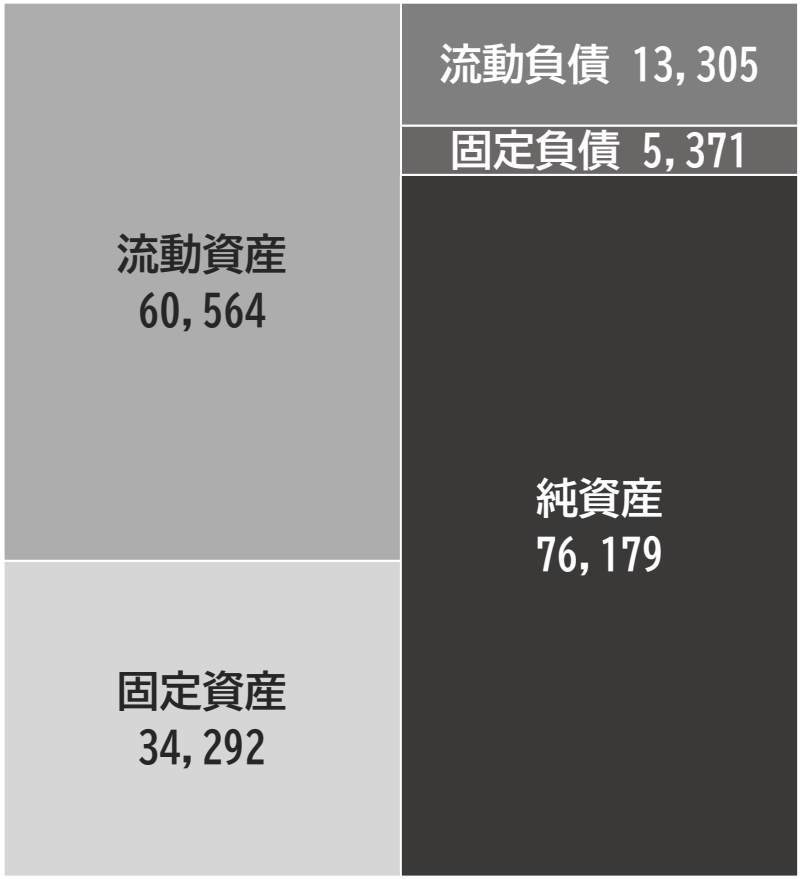
営業利益の増減要因


営業利益
3,386百万円
△399百万円
275百万円
△90百万円
売上減
粗利率上昇
販管費増
18,742 百万円
17,678 百万円
36.8 %
38.3 %
3,510 百万円
3,601 百万円
内訳
ソーシャル △1,082百万円
インダストリー +17百万円
内訳
人件費 60百万円増
販売費 85百万円減
管理費 116百万円増
営業利益
3,171百万円
2026/6 1Q
2027/6 1Q

財政状態

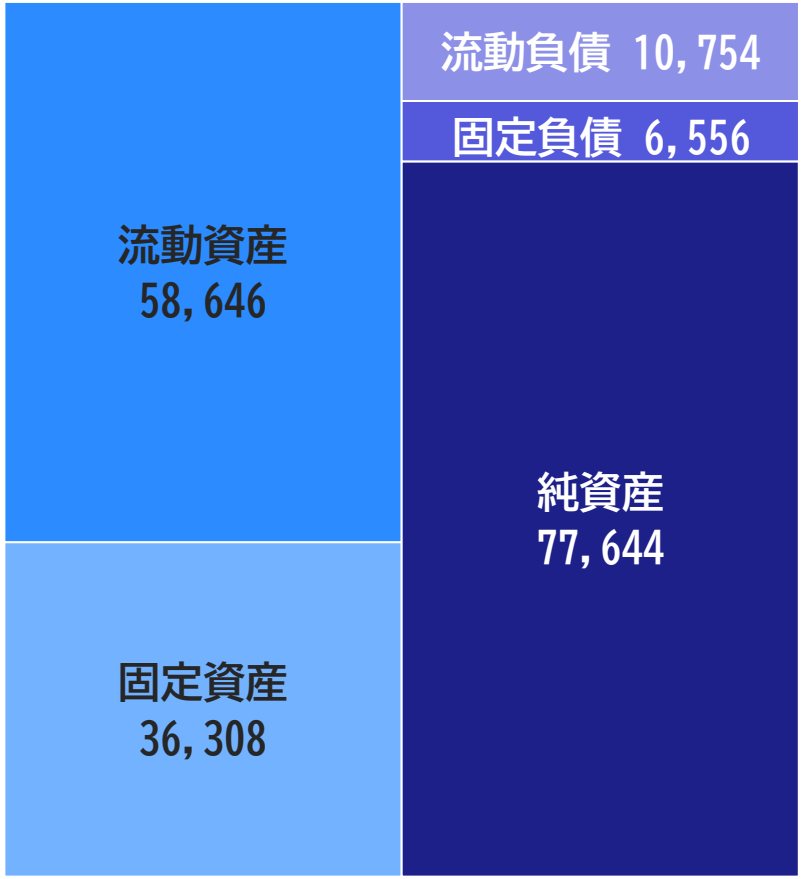
（単位：百万円）

総資産 94,856百万円



2026/6　期末

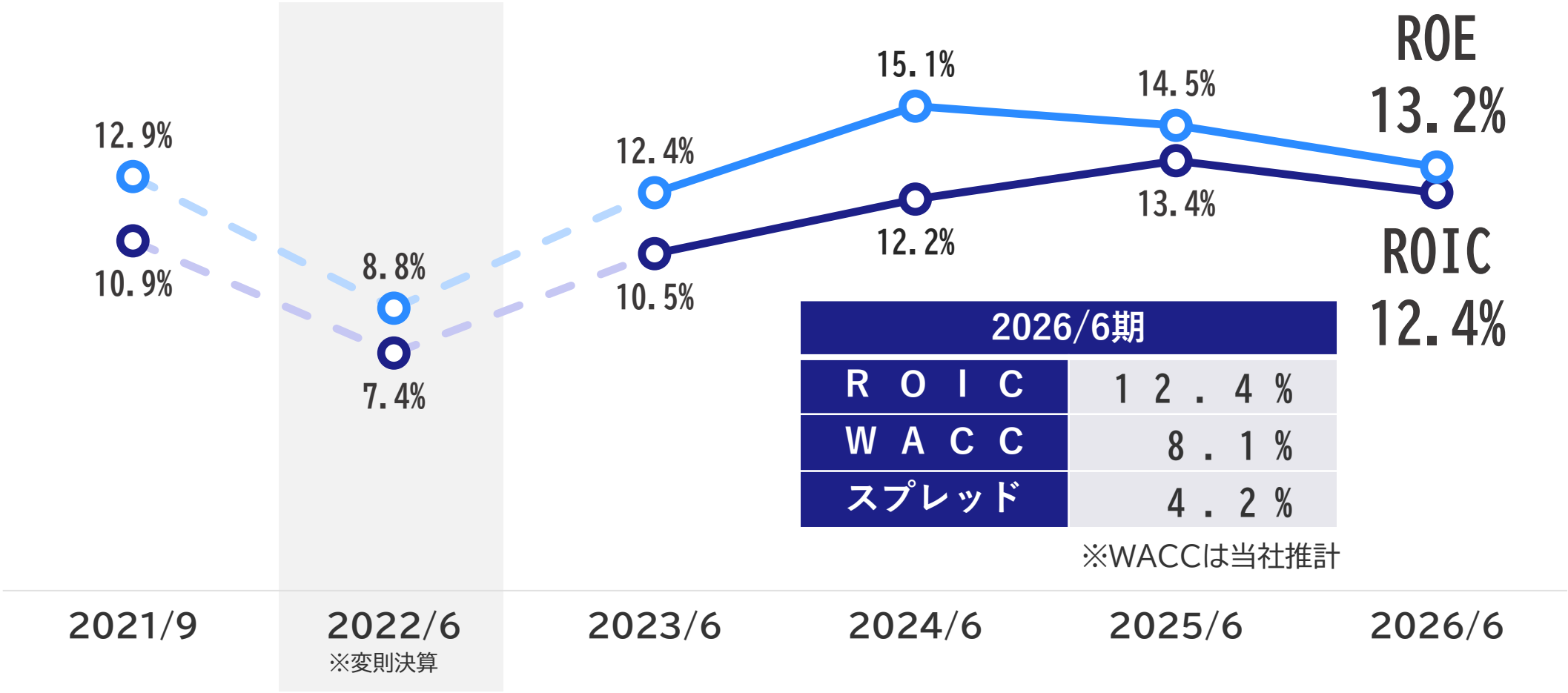
総資産 94,954百万円



2027/6　1Q末

経営指標　－ROE・ROIC推移

ご参考



2026/6期	
ＲＯＩＣ	１２．４％
ＷＡＣＣ	８．１％
スプレッド	４．２％

※WACCは当社推計

※決算期変更の経過期間となるため、2022年６月期は2021年９月21日から2022年６月30日までの９か月10日間です。

2　セグメント別決算概要

セグメント別決算概要

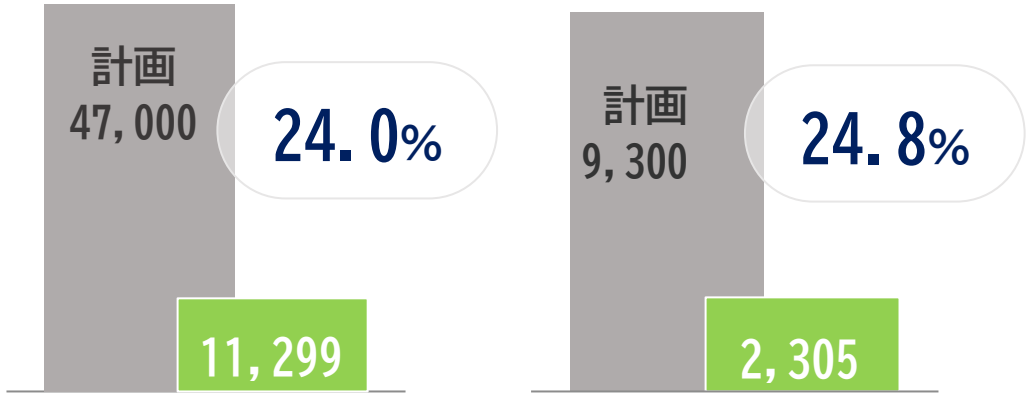
（単位：百万円）

		2026年6月期 1Q			2027年6月期 1Q			
		実績	営業利益率	構成比	実績	営業利益率	構成比	増減率
売上高	ソーシャルインフラ事業	12,381		66.1％	11,299		63.9％	△ 8.7％
	インダストリーインフラ事業	6,361		33.9％	6,378		36.1％	0.3％
	合計	18,742		100.0％	17,678		100.0％	△ 5.7％
営業利益	ソーシャルインフラ事業	2,490	20.1％	66.4％	2,305	20.4％	64.0％	△ 7.4％
	インダストリーインフラ事業	1,260	19.8％	33.6％	1,297	20.3％	36.0％	3.0％
	小計	3,750	－	100.0％	3,603	－	100.0％	△ 3.9％
	全社・消去	△ 364	－	－	△ 432	－	－	－
	合計	3,386	18.1％	－	3,171	17.9％	－	△ 6.3％

セグメント別計画に対する達成率

（単位：百万円）

ソーシャルインフラ事業



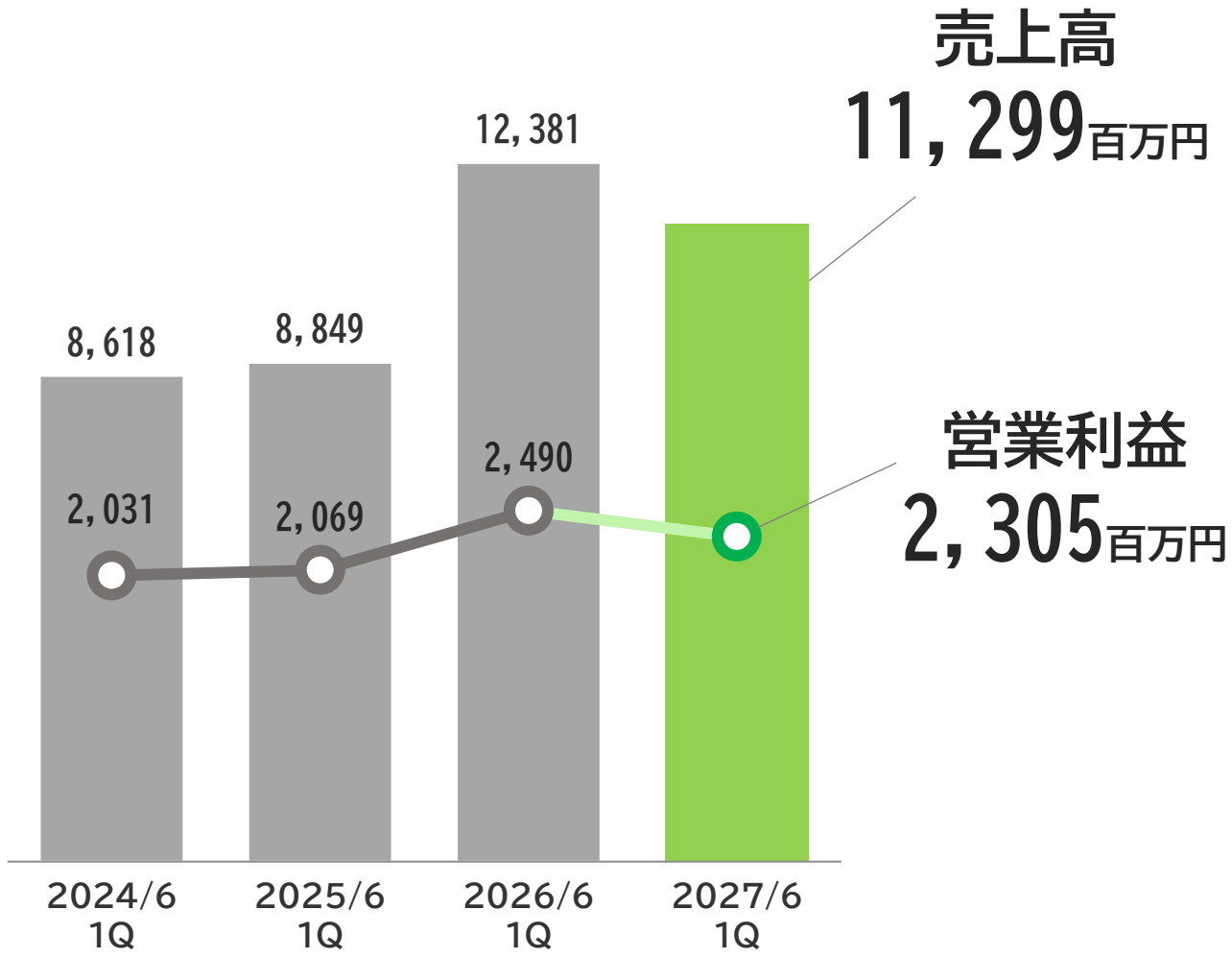
インダストリーインフラ事業



2027年6月期		売上高 1Q実績	売上高 通期計画 金額	売上高 通期計画 進捗率	営業利益 1Q実績	営業利益 通期計画 金額	営業利益 通期計画 進捗率
ソーシャルインフラ事業		11,299	47,000	24.0 %	2,305	9,300	24.8 %
インダストリーインフラ事業		6,378	26,500	24.1 %	1,297	5,000	26.0 %
全社・消去					△ 432	△ 1,800	―
合計		17,678	73,500	24.1 %	3,171	12,500	25.4 %

セグメント別業績概況－ソーシャルインフラ事業

（単位：百万円）



プラス要因

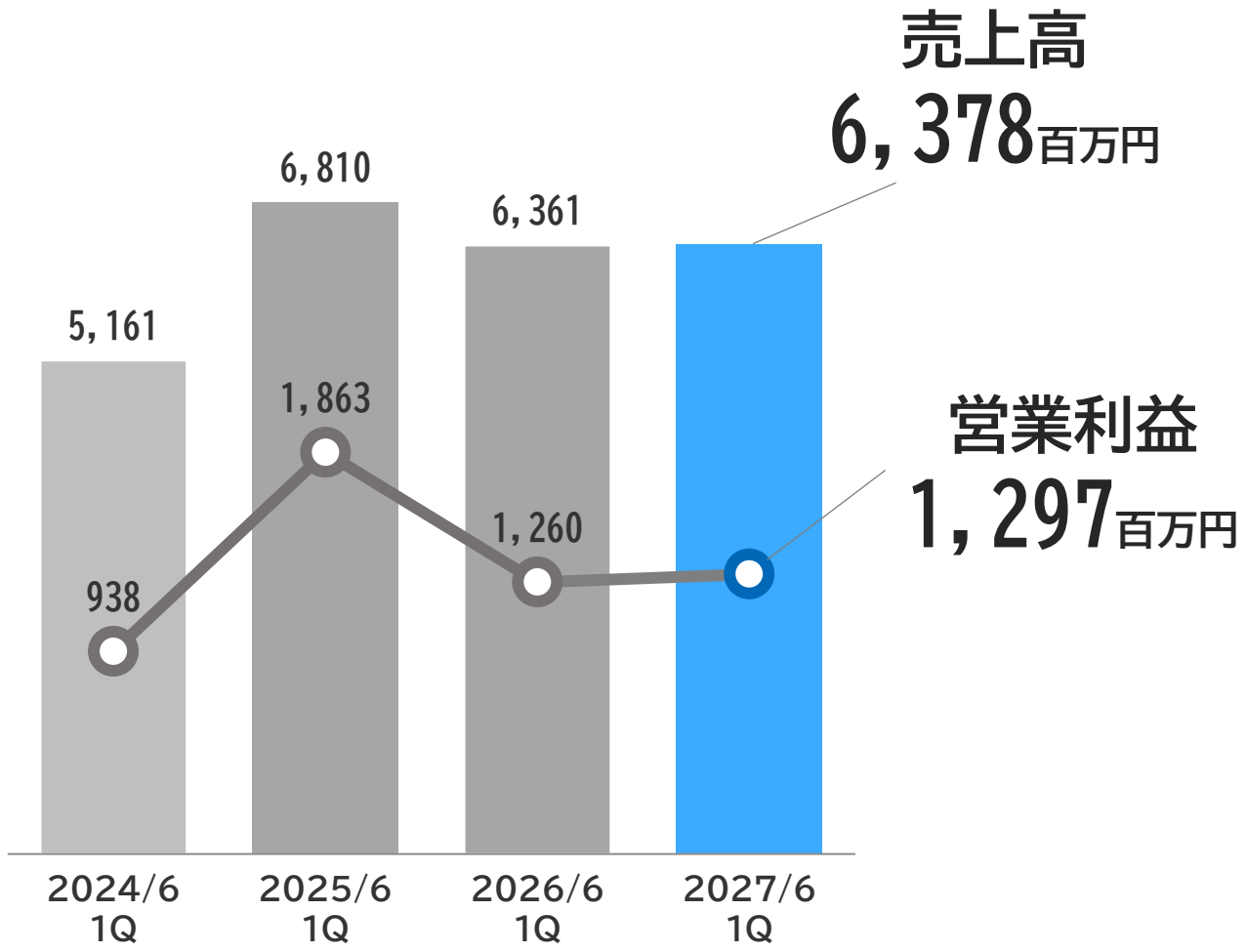
- 主力の土木資材事業の業績は、特に河川・斜面・景観資材関連が順調に推移
  ・・・大型案件の遅れはあったものの、2Qから動き出す予定
- 子会社の業績も概ね順調に推移し、2025年にグループ化した前田工繊産資も業績向上に寄与
- 9月に子会社化した名古屋油化は2Qから業績貢献（PL取込み）

マイナス要因

- フィッシュミール事業は、地球温暖化の影響による原材料（イワシ）不足により、計画比、前年同期比ともに大きくマイナス　・・・供給不足のため価格は上昇

セグメント別業績概況－インダストリーインフラ事業

（単位：百万円）



プラス要因

- BBS事業全体の業績は、計画比、前年同期比ともプラス（特にBBSドイツの業績が回復）
- 未来コーセンは、半導体市況の好調に伴い、ワイピングクロス事業が順調であり、新規開発品の上市により売上増を図る

マイナス要因

- 未来コーセンの取引先の一部で在庫調整により売上減少

TOPICS-名古屋油化子会社化

名古屋油化
NAGOYA OILCHEMICAL

事業内容　自動車用吸音表皮材の製造・販売

所在地	愛知県東海市南柴田町ホの割213-5
設立	1958年9月20日
資本金	50百万円
従業員	47名

1Q:連結BS　2Q :連結PL　へ反映








3　2027年6月期　業績予想

2027年6月期　通期の見込み（期初時点）

- 中期経営計画「グローバルビジョン∞ -PARTⅡ-」の最終年度として、
  当初数値計画を上回る実績を目指し、次期の中期経営計画に繋げていく。

- 国の掲げる「地域未来戦略」における
  「インフラ整備+防災」、「防衛関連事業」、「半導体」、「GX」 等の新たな需要に
  沿った事業展開（M&A戦略含む）を実践し、利益率を伴った業容拡大を図る。

- 中東情勢の不透明感による原材料・燃料価格高騰に対抗するため、
  ①適切な販売価格の設定　②購買力強化　を全グループで実行する。

業績予想(連結)

(単位:百万円)

	2026年6月期 実績		2027年6月期計画			
			2Q		通期	
	2Q	通期	金額	増減率	金額	増減率
売上高	37,904	71,389	38,400	1.3%	73,500	3.0%
営業利益	7,175	12,033	6,500	△ 9.4%	12,500	3.9%
EBITDA	8,920	15,737	8,600	△ 3.6%	16,600	5.5%
経常利益	7,859	12,892	6,700	△ 14.7%	12,900	0.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,406	9,571	5,300	△ 2.0%	9,600	0.3%

業績予想(セグメント別)

(単位:百万円)

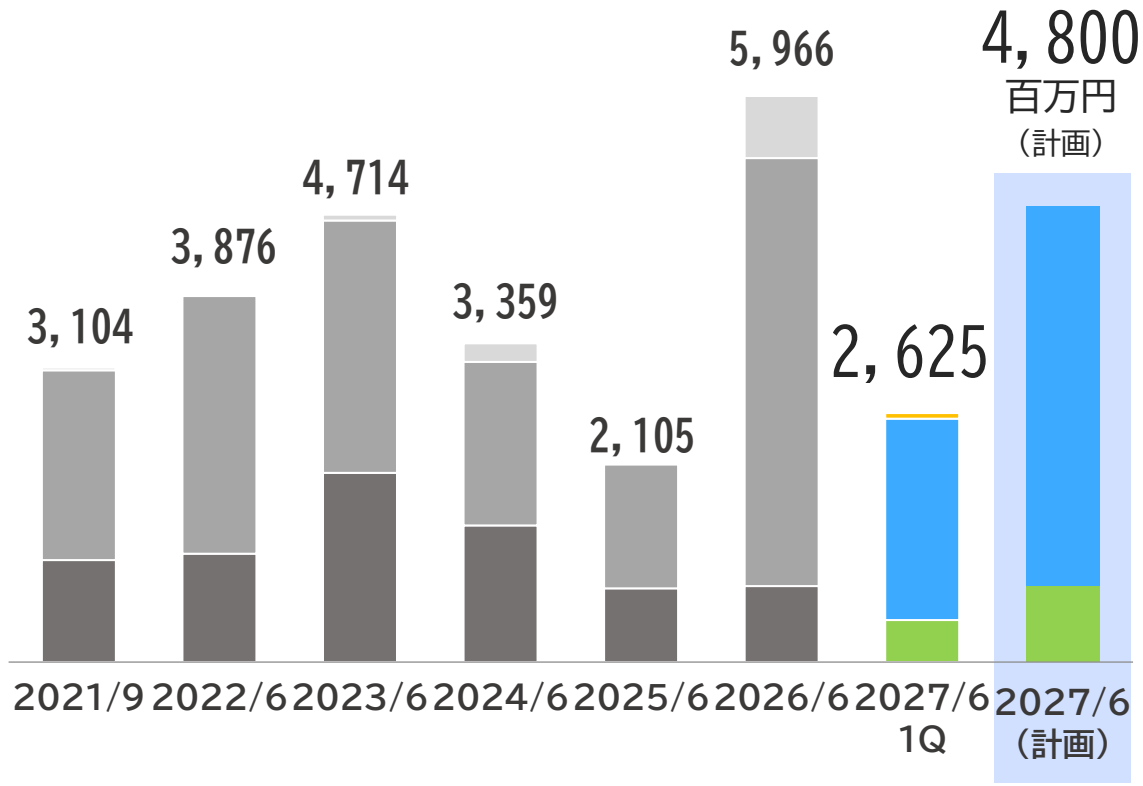
		2026年6月期 通期実績	2027年6月期 通期計画	増減率
ソーシャルインフラ事業	売上高	46,792	47,000	0.4%
	営業利益	8,855	9,300	5.0%
インダストリーインフラ事業	売上高	24,596	26,500	7.7%
	営業利益	4,704	5,000	6.3%
全社・消去	営業利益	△ 1,526	△ 1,800	ー
合計	売上高	71,389	73,500	3.0%
	営業利益	12,033	12,500	3.9%

設備投資額・減価償却費予想

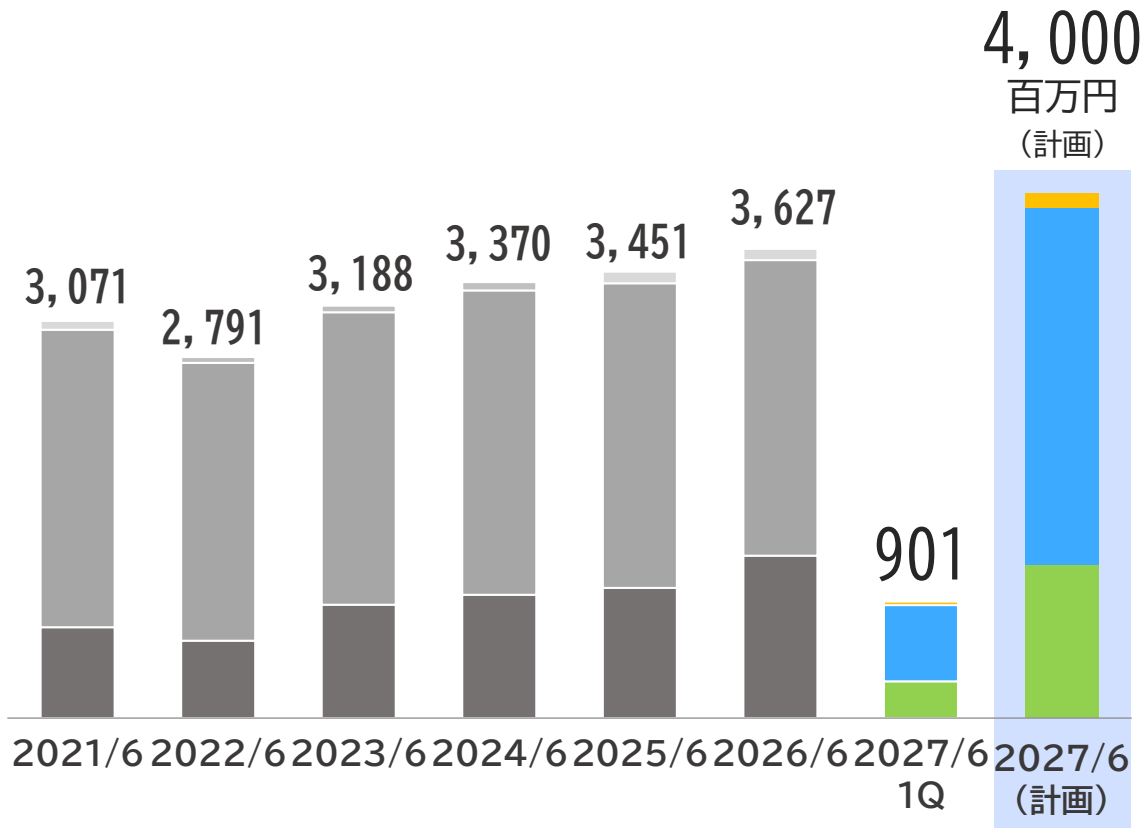
（単位：百万円）

ソーシャル インフラ事業
インダストリー インフラ事業
全社

設備投資額



減価償却費



※2022年6月期は2021年9月21日から2022年6月30日までの9か月10日間です。

株主還元策

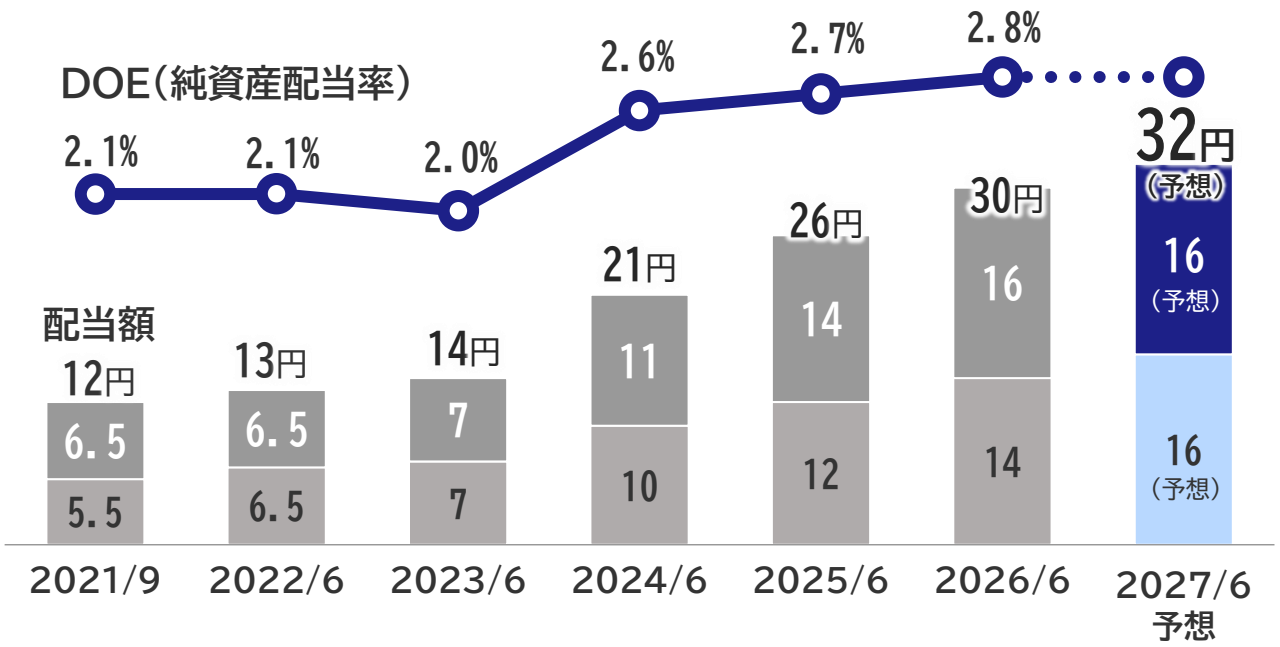
株主還元策に関する基本方針

① **累進配当の継続**
上場以来、累進配当を実施

② **剰余金の配当率**
主要指標：**DOE（純資産配当率）**
・・・当期純利益の変動が大きいため

＋

③ **自己株式の取得**
今回実施・・・詳細は次ページ



※1 ：2022年6月期は2021年9月21日から2022年6月30日までの9か月10日間となります。
※2 ：2024年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2024年6月期以前の配当額は、株式分割の影響を考慮して記載しております。

2027/6期 株主還元

配当額

中間予想	16円	（前年比 ＋ 2円）
期末予想	16円	（前年比 ± 0円）
通期予想	32円	（前年比 ＋ 2円）

@32円×65.5百万株 ＝ 2,096百万円
※自社株控除後の想定株式数

自己株式取得（上限）	**3,000百万円**
総株主還元額	**5,096百万円**

（ご参考　総還元性向　53.1%）

自己株式の取得

取得の目的

- 「新TOPIX構成銘柄」として、**株主還元の充実**及び**資本効率の向上**を図る
- 今後の**機動的な資本政策**への活用
  → 成長投資、アライアンス、M&A、役職員のインセンティブ等

取得の内容（概要）

取得しうる株式の総数	150万株（上限） 発行済株式（自己株式を除く）に対する割合2.25%
株式の取得価額の総額	30億円（上限）
自己株式取得の期間	2026/11/16～2026/11/30

４　　成長戦略としてのM&A

M&Aの活用

中期経営計画「グローバルビジョン∞- PART Ⅱ -」の4か年で
200億円のM&A投資枠を設定、M&Aの実現で成長を加速

M&A方針

Target 原則「モノづくり」の会社、特別な技術・製品がある会社

重点領域

既存事業の強化		新規事業の創出
既存事業同業 土木・建築資材、鳥獣害対策、園芸用ハウス、ブランド力を有する自動車部品	**既存事業周辺** 土木工事（法面、橋梁メンテナンス）、土木建築関連・農業関連資材、繊維関連製品	**新規事業** ニッチトップ企業、官公庁関係向け事業、ヘルスケア、スポーツ、ペット用品

海　外
土木・建築資材、ASEAN

PMI シンプルPMI

凡事徹底 ×「混ぜる」

- 生産現場の整理整頓・安全対策
- 適切な設備投資
- 継続的な生産改善活動
- 数値・成果の見える化
- 月次会議体制の整備
- 経営人材の提供

親子関係ではなく対等なパートナーとして協力関係を構築

グループの人、モノづくり、技術、ネットワークを「混ぜる」

※ＰＭＩ： M&A後の統合プロセス

M&Aの実績①

	取得年	会社名	所在地	主な事業内容	買収目的
1	2002年	太田工業 ※前田工繊に合併	兵庫県	汚濁水・流出油の拡散防止材の製造・販売	既存事業周辺
2	2004年	ゼオン環境資材 ※前田工繊が事業譲受け	東京都	プラスチック擬木、道路資材の製造・販売、輸入ジオテキスタイルの販売	既存事業周辺
3	2005年	日本不織布 ※日本不織布が事業譲受け、前田工繊に合併	滋賀県	各種不織布の製造・販売	既存事業周辺
4	2009年	サングリーン ※前田工繊に合併	北海道	緑化・植生製品、間伐材製品の製造・販売	既存事業周辺
5	2009年	マグネ ※前田工繊に合併	福岡県	多機能特殊ポリマーセメントモルタルの製造・販売	既存事業周辺
6	2011年	北原電牧 ※現 未来のアグリ	北海道	獣害対策製品、電気柵、放牧施設の製造・販売	新規事業進出
7	2012年	テクノス ※現 未来コーセン	福井県	精密機器製造向けワイピングクロスの製造・販売	新規事業進出
8	2013年	ﾜｼ興産、ﾜｼﾏｲﾔｰ ※現 BBSジャパン	富山県	自動車用軽合金鍛造ホイールの製造・販売	新規事業進出
9	2014年	ダイイチ ※未来コーセンに合併	石川県	衣料・産業資材用ポリエステル原糸仮撚加工、丸編ニッティング	既存事業強化

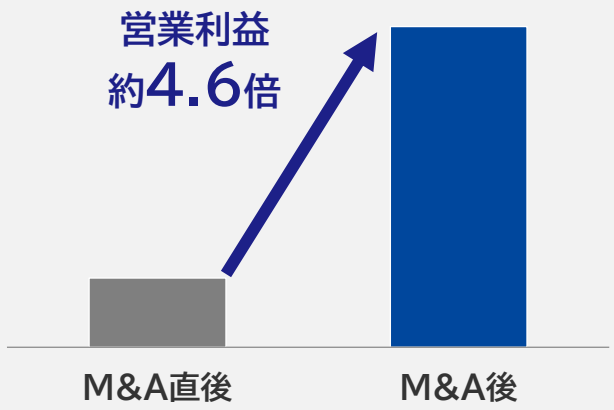
M&Aの実績②

	取得年	会社名	所在地	主な事業内容	買収目的
10	2015年	オガワテクノ ※未来テクノが事業譲受け	岩手県	防衛省の天幕・個人装備品、海洋土木品、厚手の帆布生地製品の製造・販売	既存事業強化
11	2016年	グリーンシステム ※未来のアグリに合併	福島県	園芸用ハウス、農業資材の製造・販売	新規事業進出
12	2018年	釧路ハイミール	北海道	フィッシュミール、魚油の製造・販売	新規事業進出
13	2019年	沖縄コーセン ※会社設立	沖縄県	土木資材の製造・販売・レンタル	既存事業強化
14	2021年	エスケー電気工業	北海道	電気牧柵、酪農用製品の製造・販売	既存事業強化
15	2021年	セブンケミカル	東京都	外壁防水材の製造・販売	新規事業進出
16	2024年	犀工房	滋賀県	各種遊具等の企画・設計・製造販売	既存事業周辺
17	2025年	三井化学産資	東京都	土木資材、建築資材及び配管資材の製造、加工及び販売	既存事業強化 新規事業周辺
18	2026年	名古屋油化	愛知県	自動車用吸音表皮材の製造・販売	既存事業強化

M&A投資効果

- 累計18件のM&Aを実施、全案件で買収時より業績が拡大
- 特に利益面が大きく成長

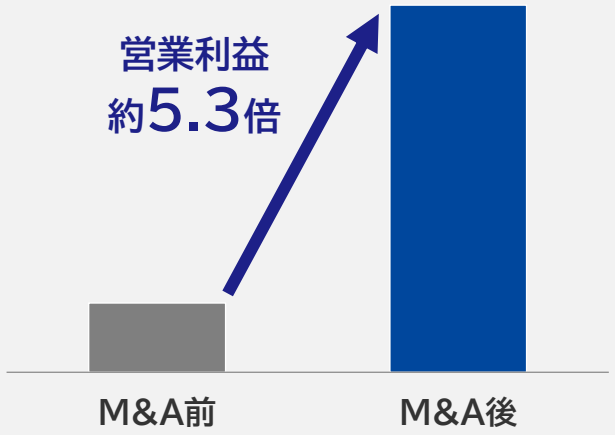
BBS（連結）



2014年グループ参入

積極的な設備投資等により
飛躍的な成長を実現

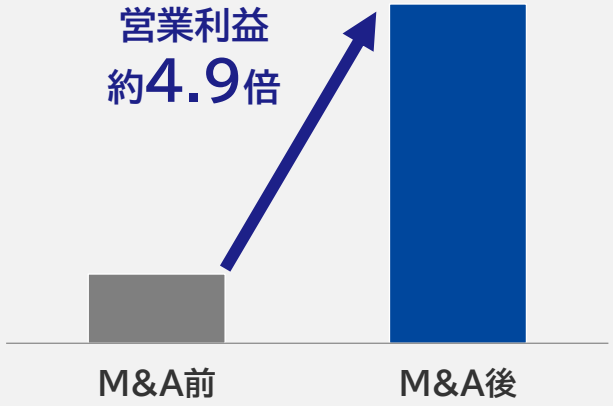
未来テクノ



2015年グループ参入

生産効率の改善により
利益率が向上

セブンケミカル



2021年グループ参入

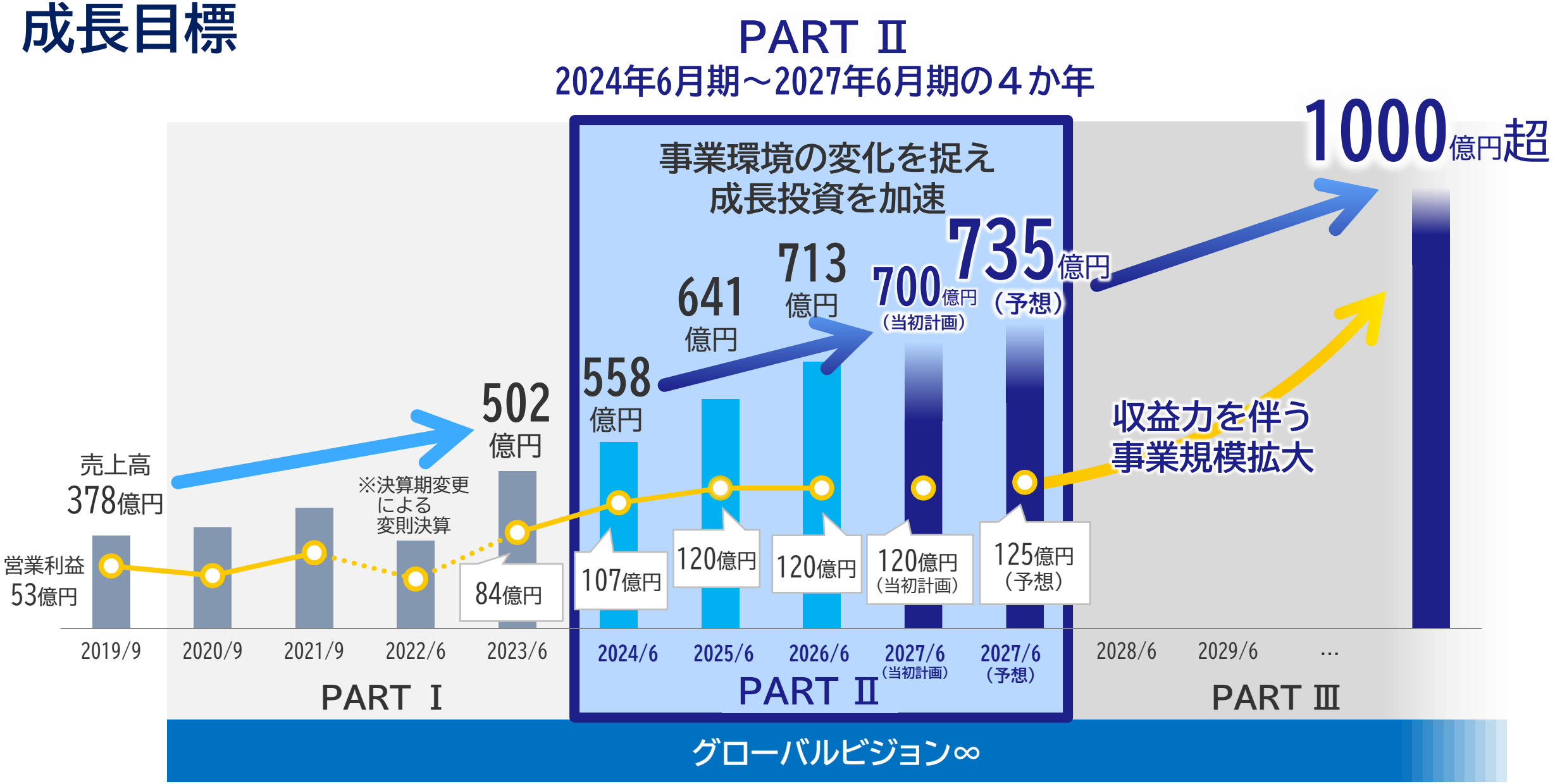
工場建替による生産性向上
を通じ利益拡大

MDKグループ中長期ビジョン

5 グローバルビジョン∞

- PART Ⅱ-

成長目標


PART Ⅱ
2024年6月期～2027年6月期の４か年
事業環境の変化を捉え
成長投資を加速
1000億円超
売上高
378億円
営業利益
53億円
※決算期変更
による
変則決算
502
億円
84億円
558
億円
107億円
641
億円
120億円
713
億円
120億円
700億円
（当初計画）
120億円
（当初計画）
735億円
（予想）
125億円
（予想）
収益力を伴う
事業規模拡大
2019/9
2020/9
2021/9
2022/6
2023/6
2024/6
2025/6
2026/6
2027/6
（当初計画）
2027/6
（予想）
2028/6
2029/6
…
PART Ⅰ
PART Ⅱ
PART Ⅲ
グローバルビジョン∞

新たな営業管理体制の浸透

前田工繊グループ　予材管理体制　浸透のポイント

1	2	3	4
将来の案件を“見える化”	予材は全て社内にオープン	予材を正しく資産化	予材を蓄積
過去の**実績**から未来の**予測**へ	**年5%以上の成長**を目指す	**将来を見据えた戦略的な行動を促進** 成果の好循環が回り始める	**短期、長期の営業目標を着実に達成**
			

導入の効果

- **足元の数字を追う営業からの脱却**
- **将来の資産（企業価値）を創出する営業への進化の促進**

主要戦略

グローバルビジョン∞ 主要戦略(概要)

既存事業の強化と新規事業進出

設備投資計画 150億円
(4年間合計)

M&A活用による事業領域拡大

M&A投資枠 200億円
(4年間合計)

グローバルネットワーク拡充

海外売上比率 30%
(2027年度目標)

＋

ESG+H

- 太陽光発電利用拡大
- エンゲージメント強化

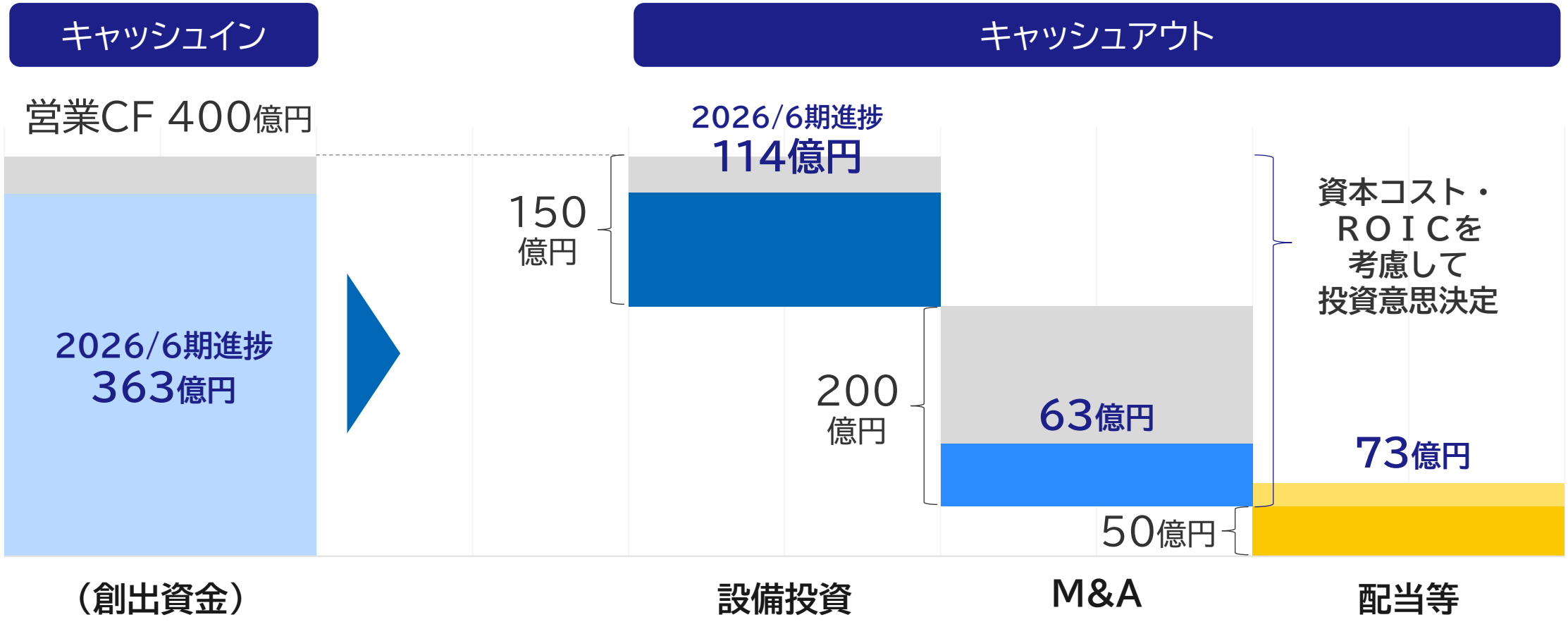
※ 詳細は、2023年8月10日公表の「中期経営計画の策定に関するお知らせ」をご覧ください。

数値目標(2024年6月期～2027年6月期)

	PART Ⅰ	PART Ⅱ				2027年6月期 予想 (2026年8月7日公表)
	2023年6月期 実績	2024年6月期 実績	2025年6月期 実績	2026年6月期 実績	2027年6月期 当初計画	
売　上　高	502 億円	558 億円	641 億円	713 億円	700 億円	735 億円
営 業 利 益	84 億円	107 億円	120 億円	120 億円	120 億円	125 億円
EBITDA	116 億円	141 億円	155 億円	157 億円	150 億円	166 億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	52 億円	79 億円	94 億円	95 億円	80 億円	96 億円
R　O　E	12.4 %	15.1 %	14.5 %	13.2 %	12 %以上	12 %

キャッシュアロケーション

中計PART-Ⅱ-期間(2024年6月期～2027年6月期)合計額(見込み)に対する進捗



6 会社概要

企業情報

（2026年9月30日現在）

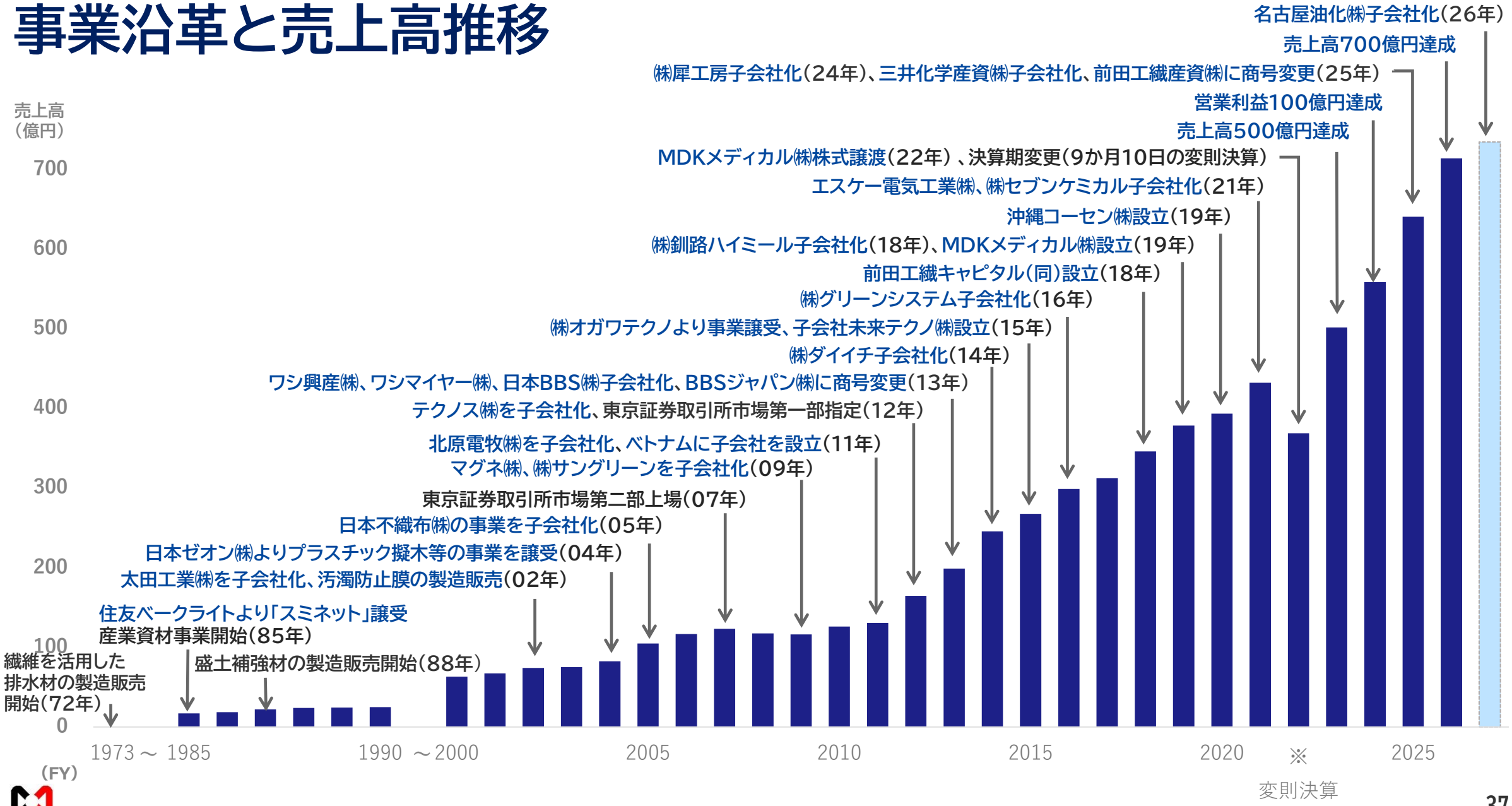
会　社　名	前田工繊株式会社		
本　　社	福井本社：福井県坂井市春江町沖布目38－3 東京本社：東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルA館12F		
代 表 者 名	代表取締役会長　前田　征利 代表取締役社長　前田　尚宏		
創　　業	1918年	設　　立	1972年
決　　算	6月30日	資　本　金	6,422百万円
従 業 員 数	1,883人（役員、嘱託・パート、実習生、派遣を含む）		
発行済株式数	68,080,612株（うち自己株式 1,394,597株）		
証 券 コ ー ド	7821（東京証券取引所プライム市場）		
単 元 株 数	100株	株 主 総 数	5,654名 （2026年6月30日現在）



福井本社


東京本社

事業沿革と売上高推移


売上高
（億円）
700
600
500
400
300
200
100
0
1973～ 1985
1990 ～2000
2005
2010
2015
2020
2025
（FY）
※
変則決算
繊維を活用した
排水材の製造販売
開始（72年）
住友ベークライトより「スミネット」譲受
産業資材事業開始（85年）
盛土補強材の製造販売開始（88年）
太田工業㈱を子会社化、汚濁防止膜の製造販売（02年）
日本ゼオン㈱よりプラスチック擬木等の事業を譲受（04年）
日本不織布㈱の事業を子会社化（05年）
東京証券取引所市場第二部上場（07年）
マグネ㈱、㈱サングリーンを子会社化（09年）
北原電牧㈱を子会社化、ベトナムに子会社を設立（11年）
テクノス㈱を子会社化、東京証券取引所市場第一部指定（12年）
ワシ興産㈱、ワシマイヤー㈱、日本BBS㈱子会社化、BBSジャパン㈱に商号変更（13年）
㈱ダイイチ子会社化（14年）
㈱オガワテクノより事業譲受、子会社未来テクノ㈱設立（15年）
㈱グリーンシステム子会社化（16年）
前田工繊キャピタル（同）設立（18年）
㈱釧路ハイミール子会社化（18年）、MDKメディカル㈱設立（19年）
沖縄コーセン㈱設立（19年）
エスケー電気工業㈱、㈱セブンケミカル子会社化（21年）
MDKメディカル㈱株式譲渡（22年）、決算期変更（9か月10日の変則決算）
㈱犀工房子会社化（24年）、三井化学産資㈱子会社化、前田工繊産資㈱に商号変更（25年）
営業利益100億円達成
売上高500億円達成
売上高700億円達成
名古屋油化㈱子会社化（26年）

グループネットワーク

前田工繊(単体) 事業所:14拠点/工場:5ヶ所

福井県
福井本社・本社工場

丸岡工場
坂井工場

未来コーセン
本社・福井工場
武生工場

北陸(福井除く)
新潟営業所
金沢営業所

BBSジャパン
本社・高岡工場
四日市工場

未来コーセン㈱
金沢工場

北海道
札幌支店

未来のアグリ
札幌本社
千歳工場

釧路ハイミール 本社

東北
仙台支店
盛岡営業所

未来テクノ
水沢工場・胆沢工場

未来のアグリ
福島本社・瀬上工場

関東
東京本社

前田工繊産資
本社
埼玉事業所

未来テクノ 東京本社

セブンケミカル
本社
埼玉工場

BBSジャパン 東京本社
前田工繊キャピタル 東京本社

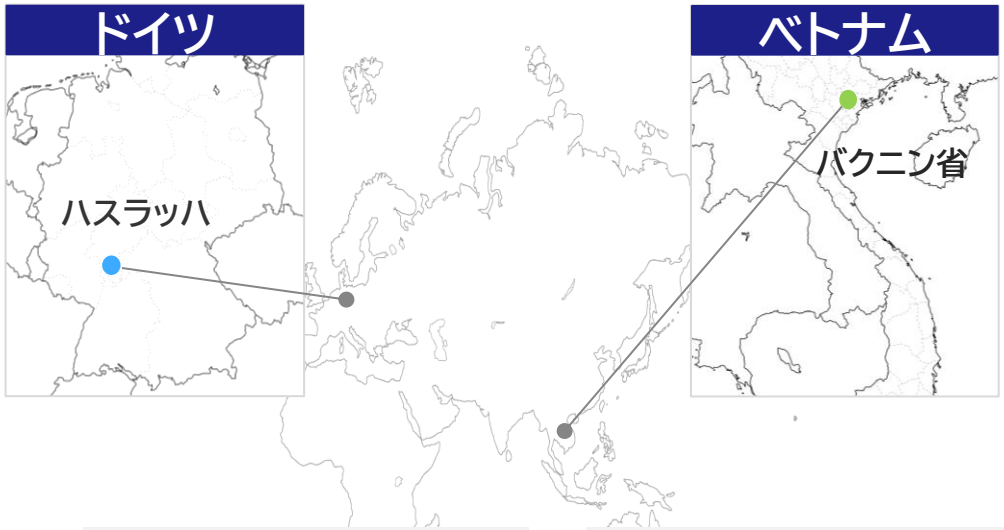
中部・近畿
名古屋支店
大阪支店
西宮工場
能登川工場

犀工房 本社
名古屋油化 本社

中国・四国
広島支店
岡山事務所
四国支店

九州・沖縄
福岡支店
鹿児島事務所

沖縄コーセン



BBS Motorsport
BBSジャパン ドイツ子会社



MAEDA KOSEN VIETNAM
前田工繊ベトナム



事業所
工場

健康経営の推進

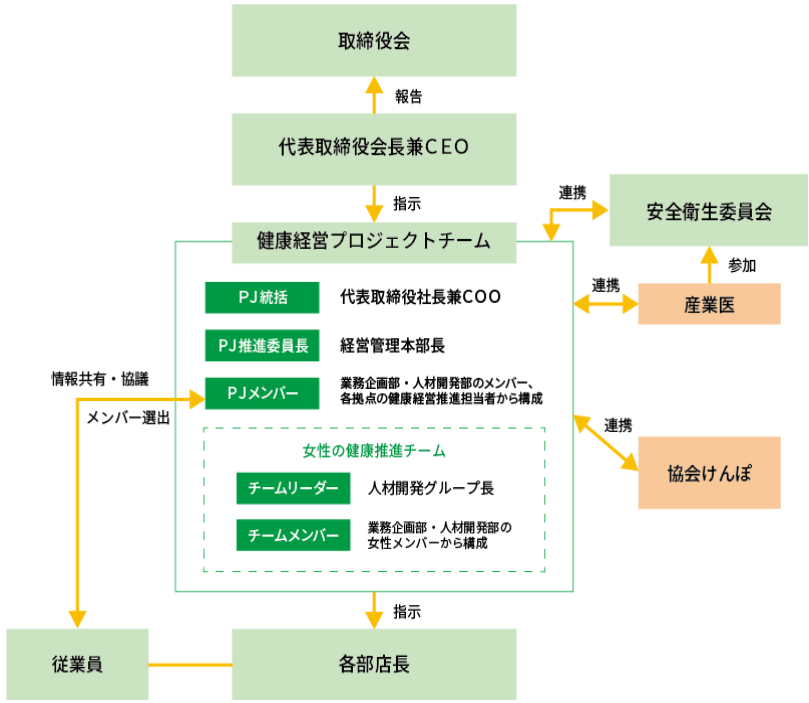
2026
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門

健康経営の目的

会社が、従業員の健康維持・増進に積極的に関わり、従業員のパフォーマンス向上を実現することを目指します。これにより、前田工繊が、より社会の安心・安全に貢献する企業に成長し、更なる業績拡大を達成することで、企業価値を向上させることを目的としております。

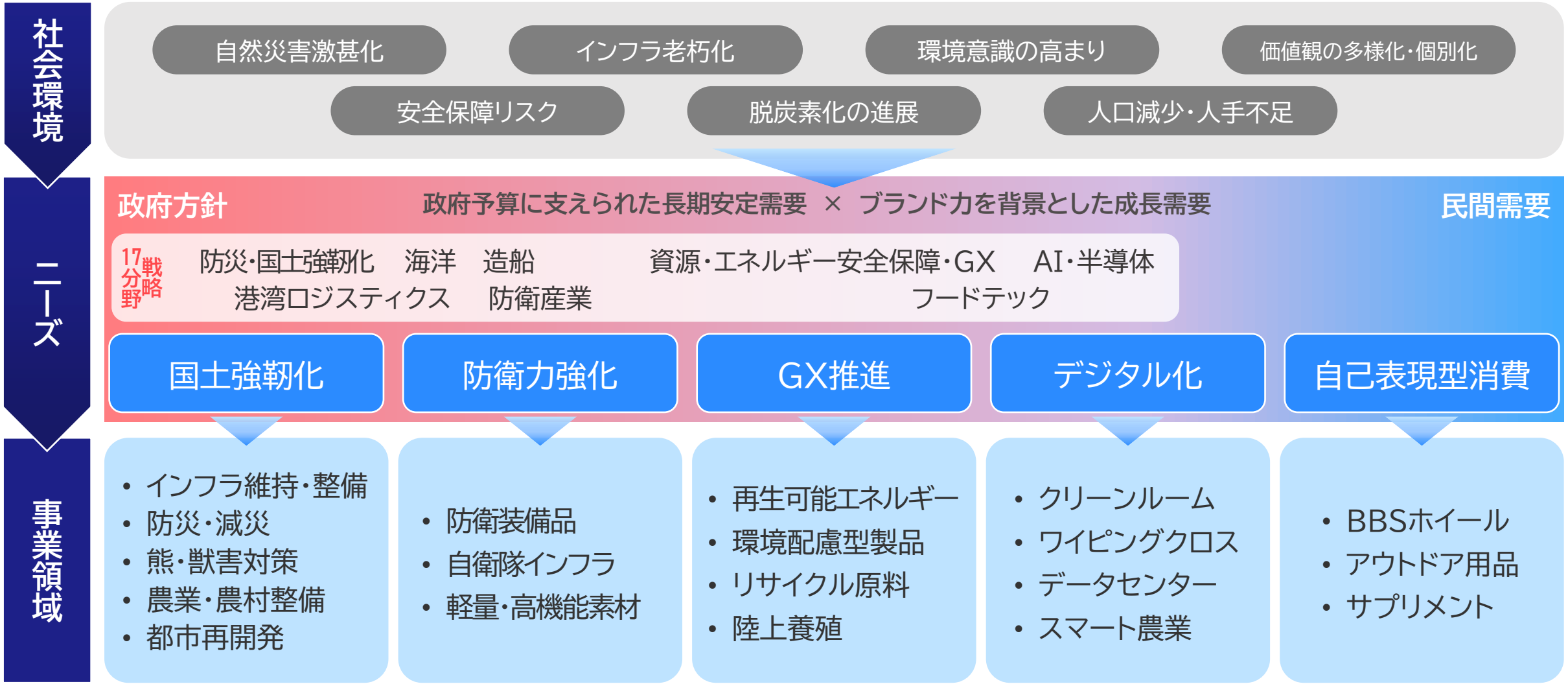
推進体制

- 代表取締役会長 兼 CEOが健康経営推進のトップとなり、関連部署のメンバーおよび各拠点において選出された従業員から成る健康経営プロジェクトチームが、迅速な施策を実行
- 労使の協議の場として、経営層および産業医が出席する安全衛生委員会において、協議・情報共有のほか、各拠点の従業員代表を健康経営推進担当者に任命し、健康経営プロジェクトチームの構成メンバーとして情報共有・協議
- 保険者（協会けんぽ）との連携をはじめ、外部機関も活用し、施策の実効性を充実化



APPENDIX
当社グループの事業環境と対応

当社グループを取り巻く事業環境



国土強靭化実施中期計画の概要

強靭化のペース加速

事業年度：2026～2030年度



内閣官房資料より作成

防災対策 新たな段階へ

「本気の事前防災」への取組み

2010年以降、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震等の
大規模災害が立て続けに発生 →**防災庁設置(2026/11/2)**

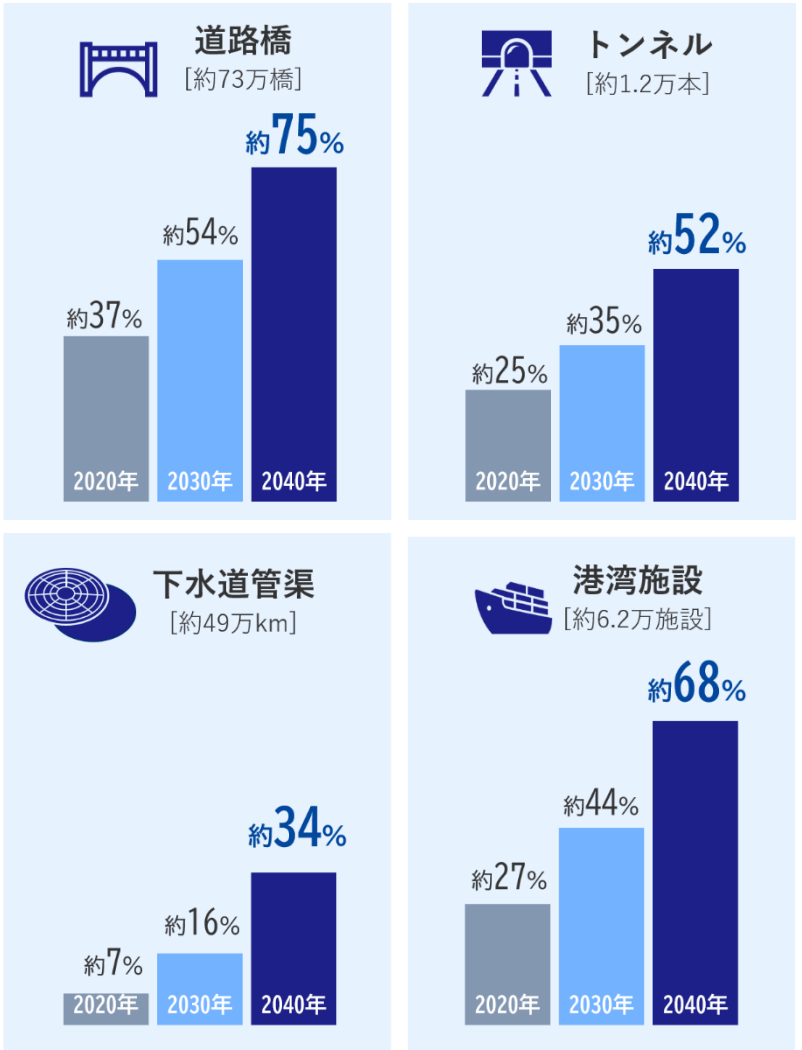
防災＝事態対処・事前対策

特に重要なのは**事前対策の強化**
（国土強靭化に向けた新たな対策事業の編成）

前田工繊グループも
急激な変化に対応した強固な組織
を創っていく

ご参考

建設後50年以上
経過するインフラの割合



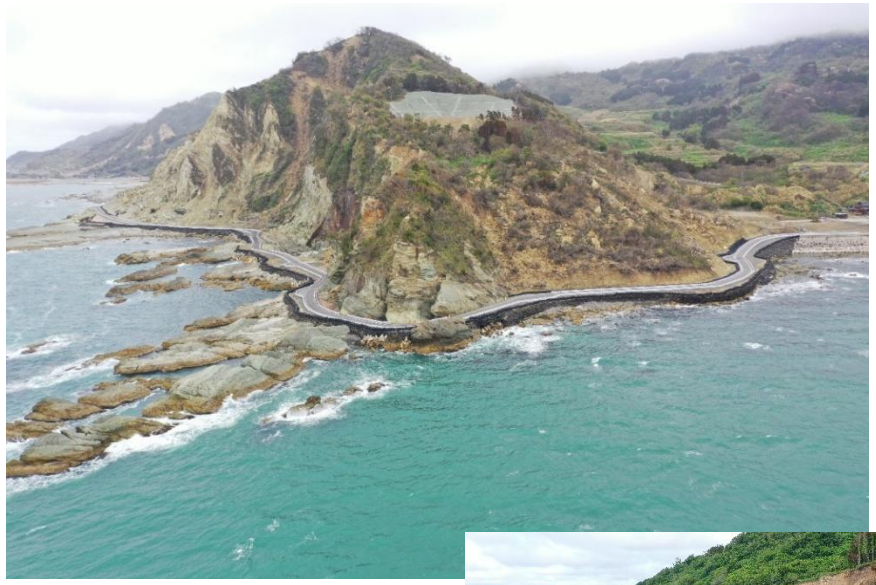
国土交通省資料より作成

インフラ整備　災害復旧

災害復旧・道路再整備において被災インフラの早期復旧に貢献

令和8年度道路関係予算配分額（事業費）	
直轄事業	1兆4，599億円
補助事業	8，608億円
その他	直轄道路に係る 災害復旧事業費36億円

国土交通省道路局都市局「令和8年度　道路関係予算配分概要」より作成





耐候性大型土のう 「ツートンバッグ®」

- 災害復旧事業における応急仮工事・本工事実施のための仮設工事等に適用
- 台風や大雨による自然災害の復旧工事ほか、道路工事中の土留め等でも効果的に使用可能

防衛インフラを支える資材群

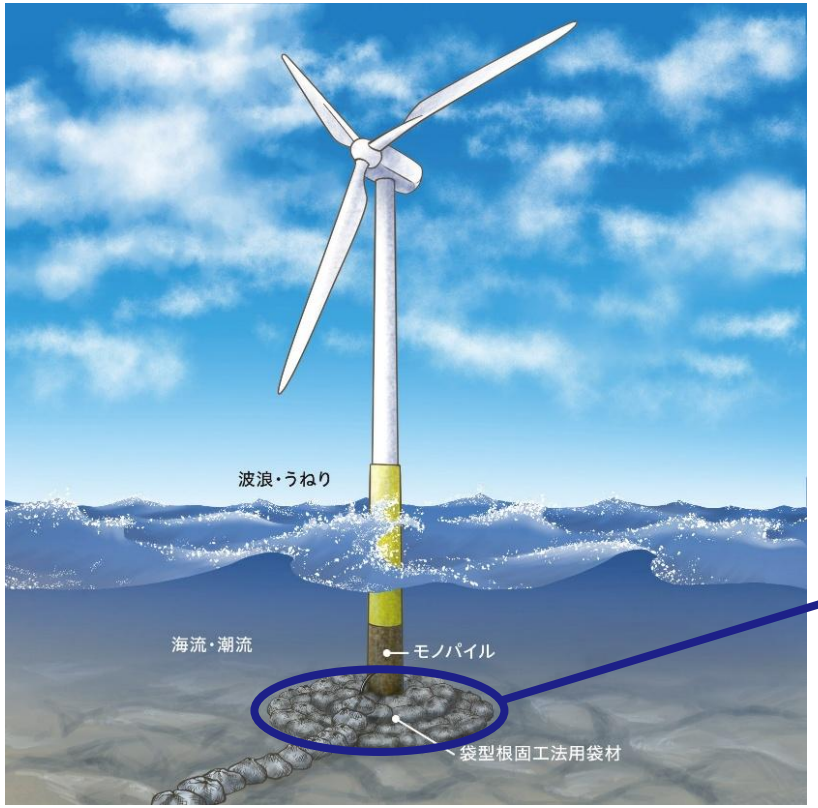
防衛施設・空港・港湾など公共性の高いインフラ分野で、当社資材の採用領域が拡大

分野	製品群		
空港整備	補強土工法用資材	● アデム®（地盤補強用資材） ● アデムウォール®（補強土壁工法）	
防衛施設	排水遮水資材	● モノドレン®（排水材）	
	緑化防草資材	● アスガード®（防草シート）	
港湾整備	海洋資材	● OKシルトフェンス（汚濁防止膜） ● ネットバッファ工法®（岸壁の長寿命化）	

再生可能エネルギー事業への貢献

洋上風力発電

波浪や潮流によるモノパイル周辺の
海底地盤の洗堀・風車の傾斜対策に



袋型根固め工法用袋材「パワフルユニット® 」



特長

- **洋上風力向け製品重量　約8t**
- ポリエステル繊維を使用
- 極太ラッシェル網地で破れにくい
- 錆びによる劣化なし

主な用途

- 浸食対策
- 防波堤のマウンド被覆
- 海岸堤防の裏側の根固め　等

ワイピングクロスの用途と役割（未来コーセン）

高性能ワイピングクロス「テクノワイパー® 」



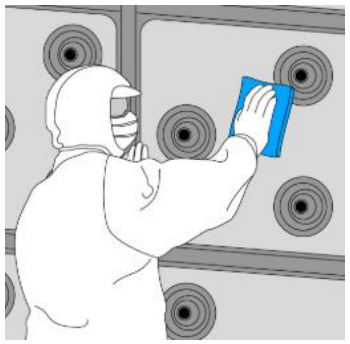
特長

- マイクロファイバー※で
  微粒子、油汚れにも優れた拭き取り性能
- 高収縮・高密度化による寸法安定性
- 特殊端面カット処理による低発塵性
- 耐薬品性

主な用途

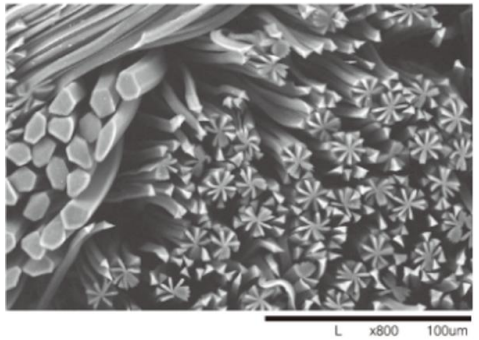


電子デバイス製品等の
製造工程

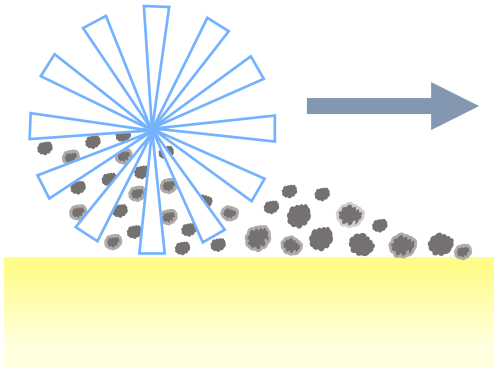


クリーンルーム内の清掃

※マイクロファイバー断面図



マイクロファイバーが
微細な汚れを逃さず拭き取る



BBSの事業戦略

BBS

需要拡大

国内・海外

塗装技術
向上



生産キャパシティの増強を図り
OEM受注を取りこぼさない体制強化

設備投資

四日市工場 塗装ライン増設

設備投資　50億円　うち15億円 補助金



受注機会最大化

OEM受注
拡大

生産能力
向上

BBS MOTORSPORT

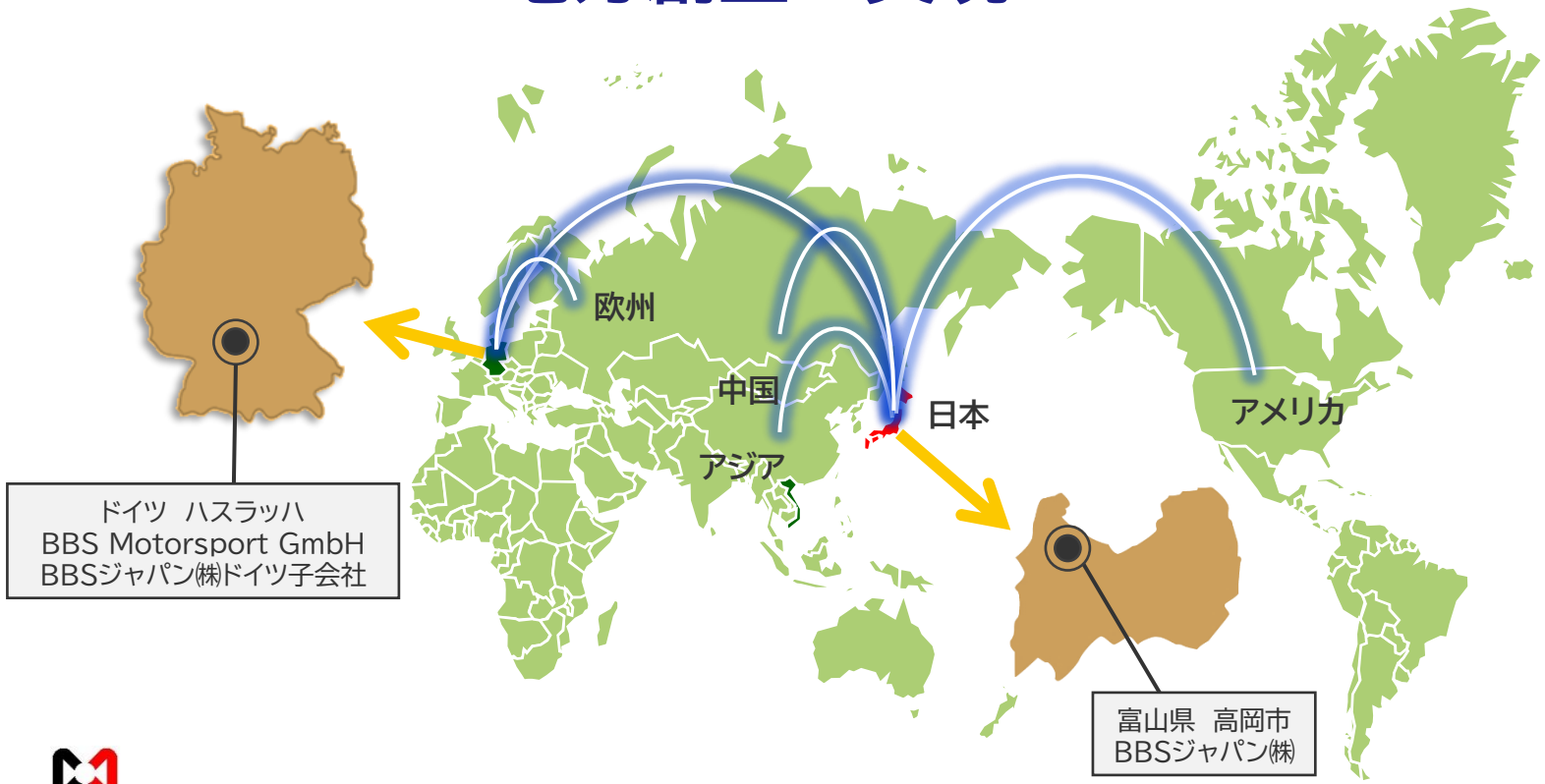
新規OEM獲得のための
新たな設備投資

設備投資＝業績向上

地方都市から世界へ

モータースポーツで培った鍛造ホイール技術を
市販ホイールに活かし、世界の自動車メーカーで採用

地方創生の実現









本資料お取り扱い上のご注意

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 本資料を作成するにあたっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料中の業績予想ならびに将来予想は本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあることをご了承ください。

本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先

前田工繊株式会社　経営管理本部

TEL:0776-51-9577　／　URL:https://www.maedakosen.jp